・Harf-Elf という冷遇されているらしき種族の Wizard
・身長 173cm、くすんだ長めの金髪に緑の瞳
・特に帝国に恨みがある訳ではないし、出来れば面倒な事には関りたくない。我が道を行きたい人
・台詞が変な風に聞こえたりなんだりするのは PL のせいである

■経歴等

Elf の母親の元で育てられる。
物心ついた時既に父親は居なかったので、自分が生粋の Elf でない事は知らずに幼少時代を過ごしたが、ある日母親を問い詰めた所、父親が人間である事をあっさりと白状される。その後は転落の一途を辿り、遂には成人を待たずして出奔。

人間社会の中でしばらく放蕩し、その後父親が Wizard だったらしい（母親談）というので、自分も Wizard を目指し修行を開始。と同時にその消息を尋ねようとする。
だが修行･勉強を続ける内に Dragon に強く興味を持ち､父親の事は二の次に。今では､どうせとっくに死んでるんじゃないか、などど思っている。

ちなみに Linden というのは苗字だが、それ以外の部分はめったに名乗らない。

■参加経緯

放浪の旅の途中で立ち寄った町の酒場で、帝国兵を元凶とするいざこざに巻き込まれる。
Linden 自身はそのまま立ち去ろうとしたのだが、何故か戦ってしまいそのままなし崩し的にレジスタンス本部に行く羽目となる。

ちなみにまだ正式に参加するつもりはない――との言はその後上書きしていない。

だが、戦う理由は出て来た。

終って一言

実は Trill はボクっ娘。

だからフェイルーンに行けば、使い魔に「世界」という名前をつけている事になり（綴り違うけど）、更には Shapechange で姿も自由に変えられるので、痛い人になる。

■第一回 「砂漠に眠る薔薇」

他メンバーの装備品がどんどん食べられていくのを余所にひたすら RustDragon の子供との会話を続ける。
「親が､」と言われた所で大体の理由が想像出来て、可哀想で何とか殺さずに帰したいと思っていたので、この次元で倒しても死なない事を知って安心した。

■第二回 「北ルート Northtrilia」

ラプトランに魔法が届かない、ペナルティーでクロスボウは当たらない。

■第三回 「Greatpain 砂漠」

砂漠で BlueDragon に出逢う。だがその見た目等があまり好みではなく､普通に戦闘に参加。結果として Breath を喰らう羽目になる。

だがそれでも Dragon は Dragon。任務終了後に Angumilavel が BlueDragon の皮を剥いでいたと知って、その亡骸を葬って置くべきだったと悔やんだのだった。

■第四回 「Porcatlaz」

巨大な BlackDragon に出逢い、小さな子を連れて歩くのも良いが、やはり本来の Dragon らしい

姿も良いと思う。状況が状況だけに、じっくり観察出来ないのが残念だった。
他にも潜入で帝国が Dragon の卵等を研究に使っている事が分ったが、自分もどうにかして卵を手に入れて育てられないものだろうか等と、最近は Dragon の事で頭が一杯である。
王女から騎士号は貰っておいたが、忠誠を尽くす気は…さらさらない。（筈である）

■第五回 「潜入 !Darkmatter 研究所」

研究所の実験生物部屋で出逢った Wind Lizard を解放する為に Familiar としたのだが、なんとも驚くべき事に Astrite Dragon への変身能力を持っていた。Rift Dragon、Dire Dragon とも遭遇出来た事も含め、なんという巡り合せだろうと思う。
多少の HP（えねるぎー）は持って行かれるものの、その変身前の可愛さといい変身後の格好良さといい、うん、まあ、溺愛する事間違いなしという感じである。
ちなみに後日その Dragon は“ Trill ”と命名された。

■第六回 「The Seal of Original Nine No.4 〜 Phasing Tree 〜」

一つ懸念が生じた。使い魔 Trill の餌の事である。今回は行先が森だったのと、Kasawaki のハンバーグ（生）を冷凍して持って行ったので何とかなったが、これから Trill が狩りを出来ない所にも行く事にもなるだろう。やはりハンバーグを持って行くしかないか…。
インコの森では毎晩のように襲撃があり、私は寝ていたがどうやら Trill は戦闘に参加していたらしい。Fire ball を放った時一足先に逃れた事と言い、なんと賢い子なのだろう。霜降りの牛肉でも食べさせてやらねば。Fire ball に関してはやはり私の判断は間違っていなかった、とだけ言っておく。（WIS:7 の状況下では）

■第七回 「Anarchic Dragon は笑わない」

扉を開けたらそこは雲の上だった。変な鳥人間がいたけどあんまりおいしそうじゃなかった。草原にいた羊はおいしそうだった。でも家畜だから食べちゃいけない、とますたーに言われたのでハンバーグを食べた。ハンバーグはおいしいけど Ration はおいしくない。
変わった白い Dragon とも戦った。強くて、ボクの攻撃はあんまり効かなかったし、途中で変身も解けちゃったけど、ますたーは褒めてくれた。この次はもうちょっと力になりたいな。
馬車に乗って行った所は気持ち良くなかった。ますたーも気持ち悪そうで、「畜生、こんな Lawful な Plane なんか…」、って言いながら頭を押さえていた。
なんかもうあのハンバーグは食べれないんだって。ますたー達はれじすたんすを止める事になった。一緒に偵察に行った人もいる。色んな所に連れてってもらえるみたいで楽しみだ。（by Trill）

■第八回 「Blackwall 包囲戦線」

Sehanine の神殿で Trill の食べられる悪夢を見た時から嫌な予感はしていた。
Dragon Skelton などの製作を総轄しているという Arcane Lord が一人 Triel。死地を潜り抜けた先に現れたその Lich の男は、Linden がまだ幼い頃に家を出たきり消息不明だった、父親だと名乗った。
Large Dragon を可愛いというその (ぶっ飛んだ) 感覚に、Dragon の使い魔。向こうはもう乾いていても、同じ血が流れている事は火を見るよりも明らかで、妙な感動を覚える。
「一緒に来ないか？」と言われ心が動かないでもなかったが、Trill を Skelton にはしたくないし (本人が凄く嫌がった)、Dragon の命を弄ぶのは許せない。Dragon を実験材料とする帝国 (というか Triel) に対し、Linden は決意を新たにしたのだった。
.

（でも Linden が Dragon の研究にのめり込んで行けば改造にも手を出すだろうし、その内に自分の寿命が Dragon に比べあまりに短いのに絶望して自らを Lich 化するだろう――と言う青写真が PL には見えてしまいました。多分そうならない為に Trill が必要なんでしょう。Trill が最後の良心。
　という訳で Trill を Triel の Dracolich との邂逅を機に、きっと Astrite が目覚めたんでしょうという事で、RP で CG 風に装いたいと思います。）

■第九回　「Middlno 学校」

　確かに故郷に十数年ぶりに帰ってみるつもりではいた。もう少し (具体的には一日ほど) 暇があったのなら行ったのだが、まさかそれを父親に残念がられるとは思ってもみない事態だった。一体どんな手を使ったのだろう。
（普通 Good の妻の元に、三十年近く顔を出していない夫が Lich になって戻って来たら問答無用で叩き出されると思うんですが。いや…それとも Elf には 30 年なんて大した事ないのか？）
　それにしても折角昔の愛読書を持って来てくれて、忠告までくれたのに、PlaneShift の Schroll をくれなかったのが惜しくてならない。

■第十一回　「忘れさられえぬ街」

　うるさいなぁと言って、Weil of Banshee を村に放ってゆく父親って何なんだろう。母親に「あれは人の心を持った振りをしているだけの Lich です」とは言われたものの、やはり何かその行動原理に自分と近しい物を感じてしまう。前々回 Triel が現れた経緯は分ったものの、どうも敵だという意識が持ち辛い…。
（蛙の子は蛙。Lich の子は…？　そんな事を考えていたら本当に死の一歩 (具体的には 1HP) 手前まで行きました。Trill 出してないのに）

■第十二回　「竜の探査行」

　Menelaus を倒して帰って来てから、マスターの様子がおかしい。一枚の手紙を前に悩み込んでいて、時折、「AL も変らなくて済むんだよ、Trill」とボクの頭をなでては呟く。
　ボクもマスターとずっと一緒にいたいとは思う。マスターがやられてボクだけ Familier Pocket の中に残される、なんてのはもう嫌だ。だけど、だからと言って悪の力を借りるのは間違ってる気がする。それにボクは、あの人たちとは戦わなきゃならない。
.
　マスターが何か思い付いたみたいだ。
「ハーフエルフとしての寿命が尽きかけてからドラゴンボーンになればいいのか。そうすれば更に 50 年は生きられる。そうとなれば、ドラゴンボーンになる方法を聞き出さないと」
　とりあえず、あの人の言いなりにならなければ、まあ、いいか。（by Trill）
（折角 Abraham と同じパーティーだったのに Eyebite 使えなかった。ベイロアは髪の毛削げ落ちそうで嫌です。ハーフエルフの方が人間より寿命は長いし夜目も利くからレッサーじゃないよ！）

■第十三回

・やっぱり父親とは戦えない。でも Trill は捨てられない。
・Trill が危うく Plane Shift で飛ばされる所だった。

■第十四回

　悪って何なんだろう。Paladin の人は「間違った手段で得た結果に意味はない」と言っていたけど、マスターは「結果が全てだ」と言う。悪を倒すためだからといって、悪の呪文を使ってもいいんだろうか。悪だからといって、村を壊滅させてもいいんだろうか。

ただ一つ確実なのは、マスターはきっとまたあの呪文を使うだろうってことだ。（by Trill）
（まさか Abraham に Avasquate の Spellcraft 通されるとは。面白かったけど。事前 Buff は今度からちゃんと掛けます）

■第十五回　「時間よ、とまれ」

・Trill を出す暇がなかった。> Let's Dragon Shape!
・Dragon との交渉は Streak の方が上手かった。> やはり Linden としては、Dragon は服従させる手段を探した方がいいのだろうか。
・Spell 運用と Int> 前者については精進します。

■第十六回　「教育的ダンジョン・高レベル向け」

ボクはマスターには邪魔なんだろうか。『Trill がいるから Evil になれない』Twenty Chains を裏切って帝国側につけば Lich にもしてやろうと言った Triel へのマスターの返答が、まだ耳から離れない。Avasquate は使おうとしていたし、仲間を平気で巻き込んだりもしていた。

自分で Dragonborn になって、「もうこれで Triel と戦わずにいる必要はなくなった」と言っていたけど、このままだと本当にマスターが悪い人になってしまいそうで、心配。（by Trill）

■第十七回　「Battle of Arias」

Triel一父は、去って行った。結局あの人にとっては自分の研究だけが大事で、帝国もその為に利用したに過ぎないんだろう。もうこれであの人と敵対する理由もなくなったし、会う事もない……。そう考えると少し寂しい気もするが。

もうすぐ長かったこの戦いも終わる。倒さねばならなかったとはいえ、Dragon も結構な種類を見る事が出来て良かった。何よりも Trill と出逢えたし。

これが終ったら、他の Dragon も見に行こうか、Trill……。

.

■今までに出会った Dragon

Rsut Dragon, Blue Dragon, Black Dragon, Rift Dragon, Dire Dragon, White Dragon, Orange Dragon, Chthonian Dragon, リオレイア (Red Dragon), Entropic Dragon, Mist Dragon, Fang Dragon